DAIFUKU
Automation that Inspires

Driving Innovative Impact 2030

長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」および2027年中期経営計画アップデートについて

（2024年4月～ 2027年12月）

2026年2月12日

株式会社ダイフク　［6383］

目次

1. アップデートの背景

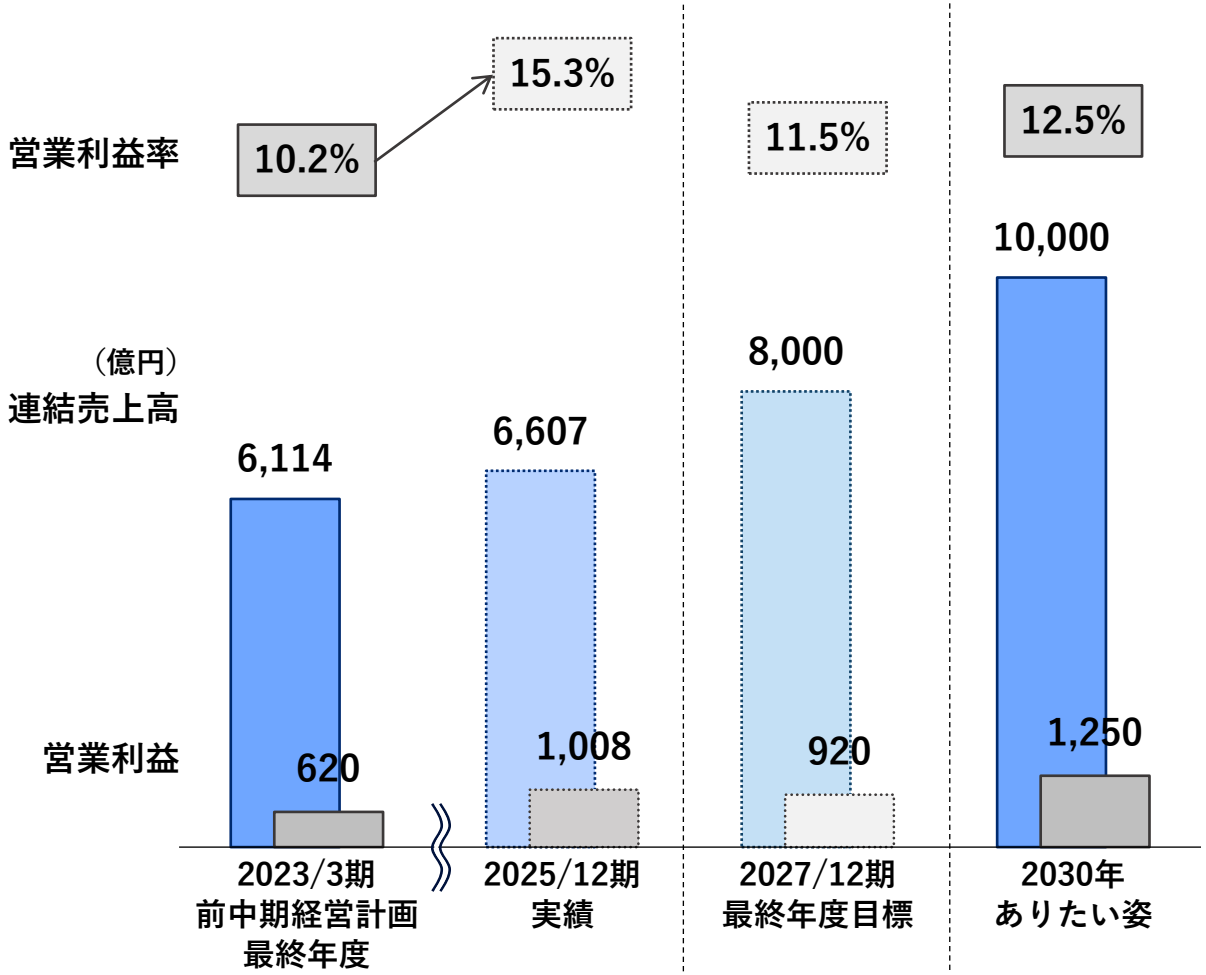
2. ありたい姿・経営目標のアップデート

3. 2026年度の重点施策

© Daifuku Co., Ltd.

1. アップデートの背景

モノづくり、お客さまへの提案、プロジェクト管理の3つのプロセスでの取り組みにより収益性が大幅に向上し、2025年度の実績が2027年中期経営計画の営業利益率目標を超える水準に



生産効率化・コストダウンの浸透・定着

前中期経営計画から進めてきた製品の標準化、部品点数削減、工期短縮などの生産効率化・コスト低減施策の全事業への浸透・定着

受注時採算の向上

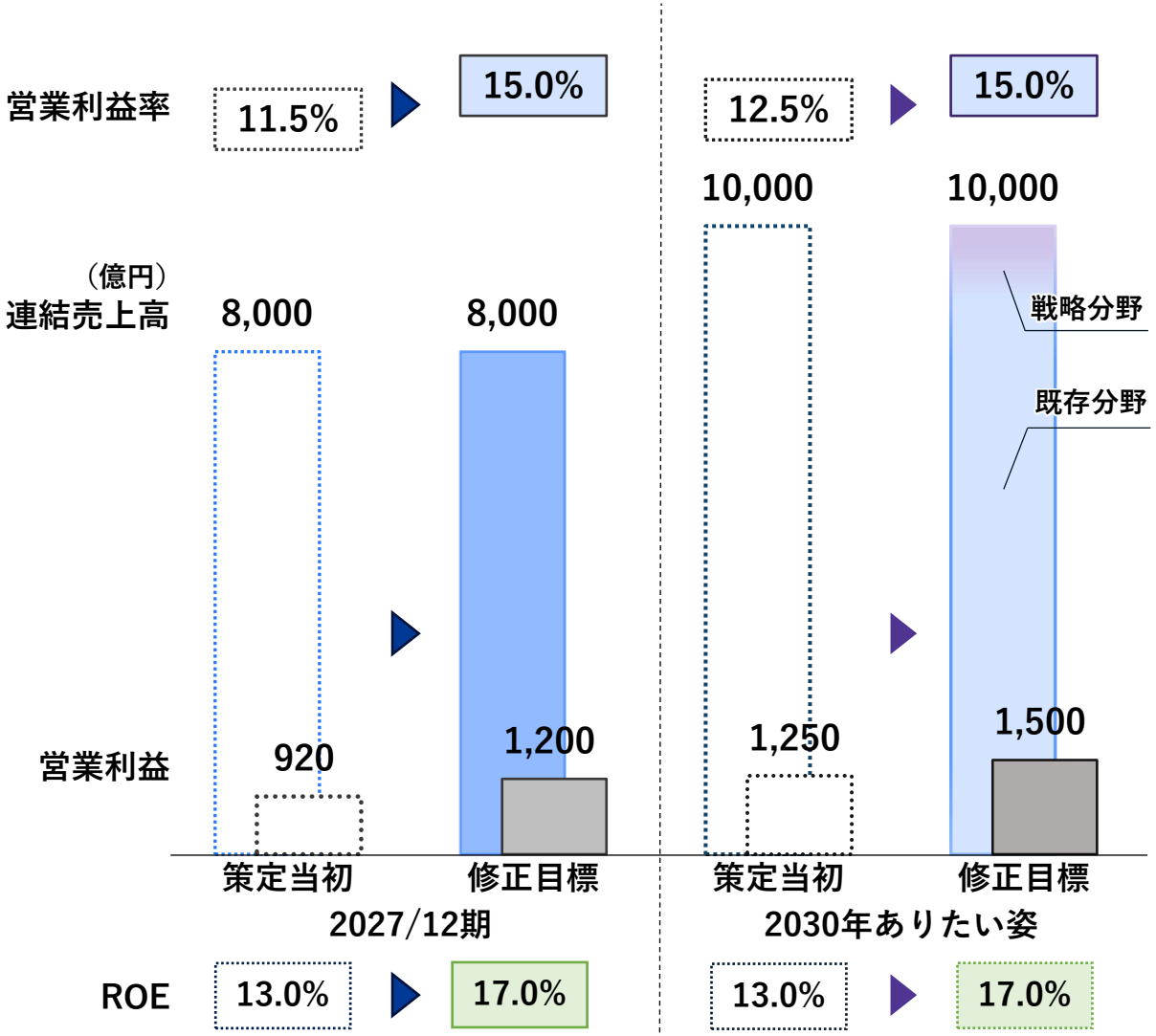
お客さまの期待に応える技術力・サービス・品質といった高付加価値提案による受注案件の採算性向上

プロジェクト管理の高度化

現場施工の効率化や3Dシミュレーションを活用した事前検証によるプロジェクトの円滑な進行と追加コスト発生の抑制

© Daifuku Co., Ltd.

2. ありたい姿・経営目標のアップデート



バックキャスト売上目標の継続

労働力不足やデジタル化の進展を背景に自動化ニーズがグローバルで拡大。2030年のありたい姿からバックキャストした売上目標は継続

ありたい姿の実現に向けた戦略分野への挑戦

M&Aや食・環境など新領域への挑戦といった中長期的な成長を目的とした戦略分野での売上拡大も想定

収益性と成長性の両立による利益目標の上方修正

ものづくり、提案力、プロジェクト管理の強化を継続し、過去最高水準に高めた収益性を堅持。トップライン拡大との両立を目指し利益目標を上方修正

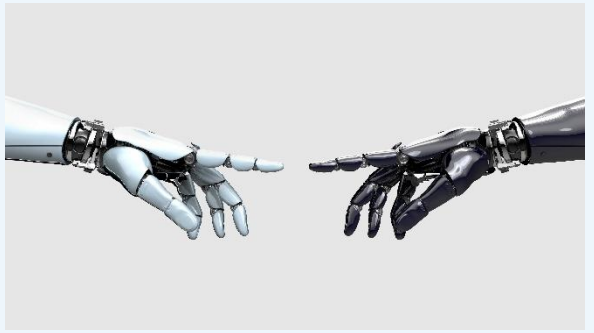
© Daifuku Co., Ltd.

3. 2026年度の重点施策

DAIFUKU
Automation that Inspires

先端技術・新規事業開発の加速

- 研究開発推進体制の拡充
- AIやロボティクスへの経営資源の積極投入
- 食・環境など新領域への挑戦



グローバル成長戦略の加速

- 米国、インドなど重点市場でのプレゼンス拡大
- 地域特性に対応した開発力強化
- M&Aも活用したスピード感のある競争力強化

利益体質の強化

- 生産革新・コストダウン活動の継続
- プロジェクト管理の精度向上
- 業務プロセスの刷新

© Daifuku Co., Ltd.

DAIFUKU

Automation that Inspires

将来の見通しに関する注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する目標、信念、計画等は、過去の事実ではなく、最新の情報から判断した経営陣の想定や信念に基づく事業見通しであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでいます。実際の業績は、さまざまな重要要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要要素としては、1）当社グループの経営環境における消費者動向および経済情勢、2）米ドルその他の通貨建ての売上・資産・負債に対する円為替レートの影響、3）コスト上昇や販売の抑制につながる安全その他に関する法令等の規制強化、4）災害・戦争・テロ・ストライキ・疾病等の影響などが含まれます。なお、当社グループの業績に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。